

困りごと 食べながら相談

買い物や料理に困っている、おしゃべり相手がない、居場所がない……。日々の生活の中での困りごとがある人も、そうでもない人も誰でも集まつて、おいしく食べながら楽しく話して、困りごとの解決に知恵を出し合う。食堂を舞台にした生活相談活動「あおば食堂」が25日、津山市で始まった。年齢も立場もさまざまな約30人が訪れて、ひとときを楽しんだ。

この活動は、住まいが見つけられず困っている人と空き家で困っている人を結びつけるなどの活動をしていいるNPO法人「おかやまUFE」(岡山市北区東古



「あおば食堂」を訪れた人たちは、冷麺を食べながら楽しげに言葉を交わしたり、いずれも津山市紫保井

初日のメニューは野菜たっぷり冷麺と赤飯だった



松4丁目)が始めた。
きっかけは昨年、津山市の高齢女性から受けた相談だつた。ご飯を作るのが難しくなり、泣く泣く家を手放し施設に移つたという。

「できたらずっと家で過ごしたいかったんだけどねえ」UFEの阪井ひとみ副理事長(59)は、「コンビニが多い岡山市中心部でも食事に困る高齢単身者らが多い。

松4丁目)が始めた。

きっかけは昨年、津山市の高齢女性から受けた相談だつた。ご飯を作るのが難しくなり、泣く泣く家を手放し施設に移つたという。

「できたらずっと家で過ごしたいかったんだけどねえ」UFEの阪井ひとみ副理事長(59)は、「コンビニが多い岡山市中心部でも食事に困る高齢単身者らが多い。

松4丁目)が始めた。

きっかけは昨年、津山市の高齢女性から受けた相談だつた。ご飯を作るのが難しくなり、泣く泣く家を手放し施設に移つたという。

「できたらずっと家で過ごしたいかったんだけどねえ」UFEの阪井ひとみ副理事長(59)は、「コンビニが多い岡山市中心部でも食事に困る高齢単身者らが多い。

支え合い 専門家や学生も参加

まして地方ならもつと大変だろう」と思い、津山での活動に踏み切ったといつ。初日のメニューは野菜たっぷりの冷麺と赤飯。「あおば食堂」調理人の中野美恵子さん(69)と正良さん(67)夫婦が、前日から準備した。正午ごろから次々と人々がやってきて、16席の小さな食堂は閉店の午後2時前までほぼ満員だった。

近所に住む30代の男性は「どんなところか様子を見たくて」。杖をつきながら歩いて来た一人暮らしの女性(78)は、食べ終えた後も食事でボランティア学生らとゆっくりおしゃべりを楽しんだ。「いつもはしゃべる機会が無いから、今日はとても気が晴れた。若い人からエネルギーをもらつた

参加者には社会福祉士や弁護士ら各分野の専門家もいる。近隣との困りごとを



阪井ひとみさん

次回は来月29日

毎月最終土曜の午前11時半～午後2時、津山市紫保井、あおばアパートA棟内で開催。大人300円、子ども無料。配膳や皿洗いを手伝えば無料になる。次回は6月29日。問い合わせはUFE(086・231・0841、平日午前10時半～午後3時)へ。(中村通子)